

経営比較分析表（令和5年度決算）

奈良県南和広域医療企業団 吉野病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	2	-	-	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	6,843	第2種該当	-	13：1

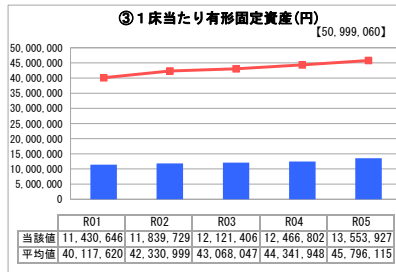
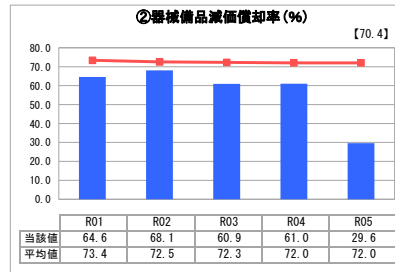
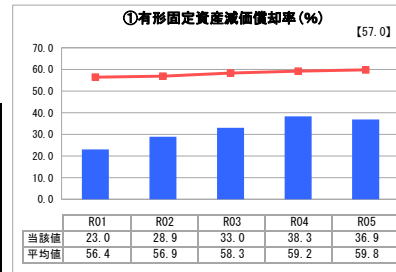
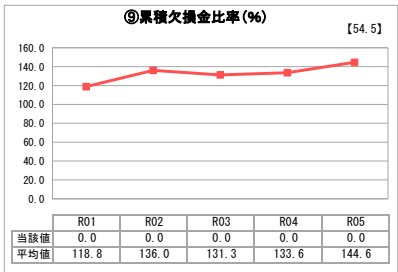
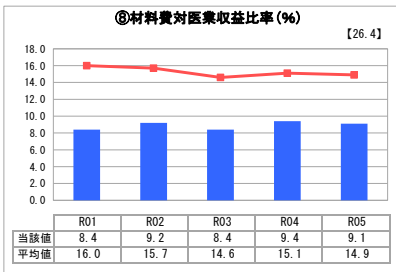
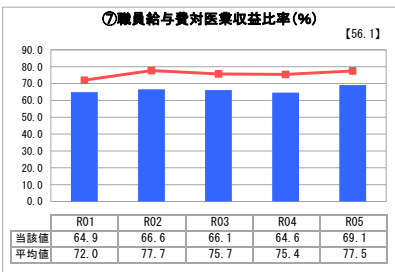
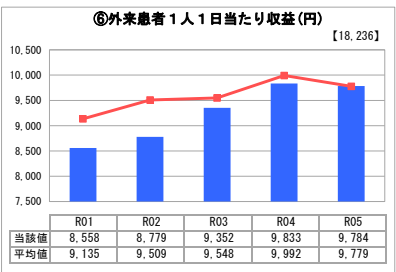
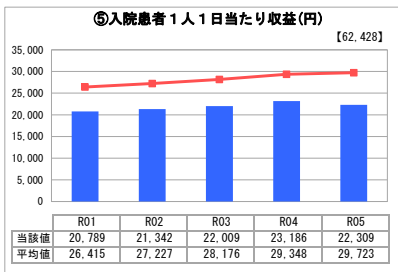
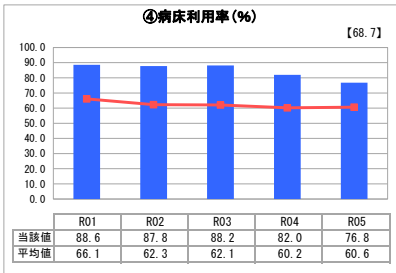
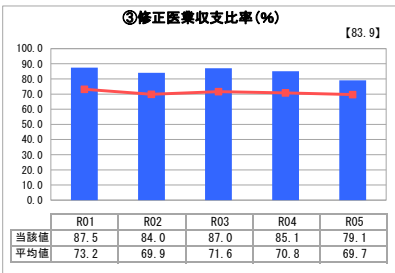
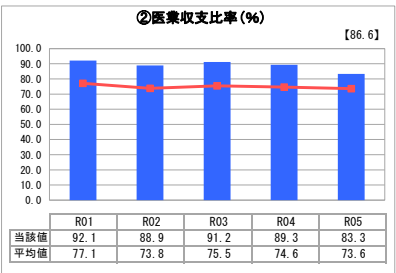
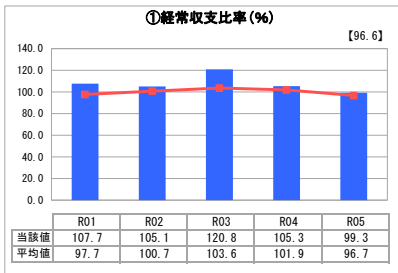
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 ヘ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
50	46	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	96
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
46	40	86

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

療養への対応・連携強化 （従来の可搬・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

療養への対応、在宅への連携を見据えた高齢者医療、身近な外来機能

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

南和保健医療圏内の公立3病院の病院機能を再編し、医療圏内における地域医療センター（回復期・慢性期）として平成28年度から運営を開始した。

経常収支比率100%の維持を目指し、南奈良総合医療センターと回復期患者の連携強化を中心として患者の確保等に種々取り組んできたが、病床利用率は76.8%と対前年比5%低下し、経常収支比率は僅かに100%を下回る形となった。
一方、外来患者にあっては令和元年度から院外処方を導入したため、外来患者1人1日当たり収益及び材料費対医業収益比率は低下したが、材料費対医業収益比率を増加させることなく1人1日当たり収益は平均値並みに向上を図ることができた。
引き続き、医業収支比率100%を目指して、収益向上、費用の適正化等の取り組みを進めていく。

2. 老朽化の状況について

医療圏内の公立3病院の再編により、再編前の吉野町国民健康保険吉野病院の建物等を企業団が買収して運用開始したため、建物等の減価償却が平成29年度から償却が始まった。

令和5年度は電子カルテシステム等医療情報システム及び端末等関連周辺機器の更新と、それに合わせて旧システム関連機器等の除却を行ったため、器械備品等減価償却率が低下した。
今後とも更新が必要な器械備品の増加が予測されるため、経営状況を踏まえながら、計画的な器械備品の整備を進めていく。

全体総括

南和保健医療圏内の公立3病院を1つの救急病院（急性期）と2つの地域医療センター（回復期・慢性期）に再編し、平成28年度から運用開始した。

今後も引き続き、経常収支比率及び医業収益比率100%を目指して、公立病院改革プラン（南和広域医療企業団中期計画）に基づき、南奈良総合医療センターや地域の医療機関との連携強化を含め、収入の確保、費用の適正化等に向けた取り組みを進めていく。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。